

## 目次

1. 巻頭言:院長のご挨拶
2. ロボットスーツ HAL@ (Hybrid Assistive Limb)について
3. 出張講座「おくすりのはなし」の活動報告
4. 呼吸器疾患看護認定看護師教育課程を修了して
5. 看護部広報誌「あったか広場」の紹介
6. 編集後記

## 巻頭言

## 国立病院機構の理念

私たち国立病院機構は、国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために、たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに、患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます。

## 宮崎東病院の基本理念

「主役は病める人」をモットーとして患者さんの人権を尊重し、良質かつ高水準の医療を提供します。

## 院長のご挨拶 コロナ禍における当院の現状分析と将来展望について

新院長を拝命して、はや半年になろうとしています。コロナ禍については第7波という最大の波の只中にあります。ユーラシア大陸の西側では大きな戦争が継続中で、日本海をはさんで当事国と向き合っています。日本でも大雨や火山噴火、台風など例年になく自然災害が増えています。先の見えない不安の中にありますが、当院は今のところ優秀な成績を残しています。振り返ります。

コロナ診療については、この4月から9月初めまでに入院患者117名、感染症外来患者81名を受け入れました。オミクロン株の流行では軽症例、無症状例が多い中で、合併症が多くワクチン接種も不十分な高齢患者、重症患者が主体となりました。外来も含めて頑張ってくれた2階病棟のスタッフにとくに感謝します。院内の感染対策については、患者による院外からの持ち込みはなんとか防

いでいますが、職員の感染が相次いでおり、発症あるいは濃厚接触者として休業を余儀なくされ、スタッフの不足が各部署で問題化しています。後ろから感染の矢が飛んでくる厳しい状況が続きますが、ICD、ICNの皆さんもうひと頑張りをお願いします。職員についてはワクチンの4回目接種をほぼ終了したところであり、大規模な感染の拡大は防げると考えています。患者との接触や症状に心あたりがある方は、遠慮なくPCR検査を受けてください。感染者や濃厚接触者となることは社会生活のなかで仕方ありません。決して無理しない、隠さないことをお願いします。

院長就任後に記念すべきこととして、月の単位ですが2年ぶりの医業収支黒字化ができました。コロナ診療による収入増は勿論ですが、他の分野でも地道に回復に努めていただいた成果と考えます。患者数が増やせないならば単価を上げるなどの発想の転換も必要かもしれません。皆様の頑張り感謝し、今後に期待します。

9月からは外来棟とサービス棟の改修工事、特定行為研修施設の新設が始まります。衛生設備の改善や休憩室の増設により皆さんの職場環境を少しは改善できると思います。施設、設備については、要望があれば院長や担当部署長に遠慮なく提案してください。

3月には院長、副院長、放射線科医師の定年などがあり、4月には事務部長も交代しましたが、勤務延長や新任医師の確保により引継ぎができたかと思えます。今後も診療体制の整備を継続し、必要とされる人材の確保に努めます。大きな災害を想定した準備も整えていきます。地域住民や近隣の医療機関から一層頼りにされる宮崎東病院を創るため皆さんのご協力をよろしくお願いします。

令和4年9月 院長 伊井敏彦



院長  
伊井 敏彦

## ロボットスーツ HAL® (Hybrid Assistive Limb) について

リハビリテーション科 副理学療法士長 榎木大介

当院のリハビリテーション科では 2018 年 7 月から脳神経内科・HAL 専門外来の斉田和子医師のご指導の下でロボットスーツ HAL® (Hybrid Assistive Limb) 下肢タイプを導入・運用を継続しております。2021 年は新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、これまで順調に HAL® 実施件数は増加しており、4 年間で延べ 95 名の患者様に 762 件の HAL® を用いた歩行訓練であるサイバニクス治療を提供することができました。

HAL® は装着者(患者様)の随意運動に伴って起こる皮膚表面の生体電位信号を感知してパワーユニットの駆動で下肢の運動をアシストし、歩行や立ち上がりなどの運動療法を行う事ができます。患者様の「動きたい・歩きたい」という思いを「自分の身体が動かせる・楽に動けた」という経験につなげることができ、そしてそれが患者様のなによりの喜びやリハビリテーションに対する意欲につながっていることを我々セラピストは HAL® を実際に使用する度に感じております。

本邦で HAL® は 2016 年に神経難病である 8 疾患に対して医療保険収載が認められました。適応疾患としては①脊髄性筋萎縮症、②球脊髄性筋萎縮症、③筋萎縮性側索硬化症、④シャルコー・マリー・トゥース病、⑤遠位型ミオパチー、⑥封入体筋炎、⑦先天性ミオパチー、⑧進行性筋ジストロフィーです。HAL® 歩行訓練を行う上での身体機能の目安としては自立、介助または歩行補助具を使うことで 10m 以上歩行可能な患者様となっております。

当院リハビリテーション科は、今後とも関係機関の先生方や地域の患者様のご期待に添えるよう精進してまいります。HAL® 歩行訓練に対して適応のある患者様がおられましたら、当院脳神経内科 HAL 外来へお問い合わせください。



## 出張講座「おくすりのはなし」の活動報告

薬剤科長 川俣洋生

去る7月7日、赤江老人福祉センターで出張講座「おくすりのはなし」を開催しました。

薬剤科では以前より出張講座を行っていましたが、コロナ禍の影響によりこの2年間は活動を行っていませんでした。

今回の講座では薬の使い方、薬と食べ物の相性、飲み残した薬(残薬)の話に加え、インフルエンザや肺炎球菌などの予防接種の話をしていただきました。コロナ感染対策のため換気を行っていただきましたのでお集まりいただいた皆さんは暑かったと思いますが、皆さん熱心に聴かれておりこちらもつつい熱が入りました。

また、講座後はMSWからはパンフレットを用いた当院の紹介とアンケートを行いました。アンケート結果にはドキドキしましたが、当院に対する好意的な意見を頂けましたのでホッとしました。

帰りがけに月間スケジュールを拝見すると月曜から土曜まで毎日様々な活動が計画されており、皆さんの健康意識の高さを感じました。今回の出張講座が薬の適正使用、健康増進に少しでもつながれば幸いです。



## 呼吸器疾患看護認定看護師教育課程を修了して

外来看護師 河野 裕行

令和3年4月から1年間、福井大学大学院医学系研究科地域高度化教育研究センター看護キャリアアップ部門において、呼吸器疾患看護認定看護師教育課程を受講させていただきました。令和3年度から認定看護師教育課程は看護師特定行為研修もカリキュラムに含まれ、呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連の4行為、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の2行為の計6行為を認定看護師教育課程と並行して修了しました。

呼吸器疾患の多くが発症から増悪と安定を繰り返し、慢性的な経過を辿る過程で、徐々に病状が進行するため予後を見通すことが難しいと言われています。呼吸器疾患看護認定看護師は、COPD、間質性肺炎、肺がん、気管支喘息、肺結核後遺症、睡眠呼吸障害、神経・筋疾患等によって生じた呼吸障害を抱える対象者に対し症状緩和のためのマネジメントを行い、QOLを高めるための療養生活支援を実践することが求められます。呼吸障害によって生じる苦痛をアセスメントし、多職種とともに寄り添う看護を行っていきたいと思います。

当教育課程を受講するにあたりご支援していただいた塩屋前病院長、病院関係者の皆様、看護師特定行為研修隣地実習受け入れにご協力いただいた宮崎大学医学部附属病院救命救急センター落合教授をはじめスタッフの皆様へ感謝申し上げます。

## 看護部広報誌「あったか広場」の紹介

専従教育担当看護師長 渡邊仁美

看護部では、8年前から看護師確保や看護の良さを院内外に伝える事を目的に、人材確保プロジェクト活動を行っています。活動内容としては就職説明会への参加、病院見学やふれあい看護体験の運営、採用内定者や新採用者へのフォローアップ等です。また、看護の良さを院内に伝える活動として、「あったか広場」を年に2回発行し、新人看護師の成長過程や看護部の活動内容を紹介しています。

コロナ禍による業務の繁忙や、休憩時間の黙食により語り合う場が少なくなっています。そのような中、広報誌を通して看護を語るきっかけとなり、看護の良さや面白さの再認識につながってほしいと考えます。また、コメディカルとのコミュニケーションのツールとなり円滑なチーム医療につながることを期待しています。



### 移ろいゆく季節

少しずつ、秋めいてきました。  
体調を崩しやすい季節にもなります。  
どうぞ、お身体には充分気を付けて  
お過ごしください。

※季節行事:七夕  
(療養介護病棟)

※季節行事:月見  
(療養介護病棟)

### 編集後記

広報誌 News 宮崎東のバックナンバーを振り返ると、2006年頃から開放型病院登録医の紹介を行ってきたようです。ご寄稿頂いた先生方には、この場を借りて改めて御礼申し上げます。今後は毎号の登録医紹介ではなく、不定期に掲載させて頂く予定です。

開放型病院登録医運営協議会は、昨年、一昨年とコロナ感染拡大により開催中止でしたが、今年度は感染対策を講じて、10月に対面開催を計画しています。感染拡大状況によって中止の可能性もありますが、登録医療機関の先生方と対面でお会いして開催出来る事を願っています。

編集委員 M